

恐竜学はじめの一步

藤田 将人（恐竜化石担当）

1) はじめに

展示室にある恐竜の骨格や歯化石などの標本を見ながら、その形態学的特徴やそこから分かることをお話しします。また、富山市大山地域から発見されている恐竜化石についても解説します。

2) 恐竜とは

中生代三畳紀（約2億3千万年）～白亜紀末（約6600万年前）に、直立して歩き陸上に生きていたハ虫類。

ただし、分岐分類学では「現生鳥類とトリケラトプス(*Triceratops*)を含むグループの最も近い共通祖先より分岐したすべての子孫」とされる。

3) 紹介する主な標本

- ・アロサウルスの全身骨格
- ・コンプソグナトゥスの全身骨格
- ・ティラノサウルスの動刻
- ・恐竜の歯



4) 注目ポイント

- ・骨盤の形
- ・寛骨臼と大腿骨頭
- ・体の下に伸びる大腿骨
- ・頭骨の穴
- ・頭骨の眼窩の向き
- ・歯の形

5) 富山市大山地域から発見されている恐竜化石

- ・約500点の恐竜（獣脚類、鳥脚類、竜脚類、アンキロサウルス類）、翼竜類や鳥類の足跡化石
- ・獣脚類の歯化石2点、イグアノドン類歯化石

6) 参考図書

- ・恐竜の教科書 創元社
- ・恐竜学入門 東京化学同人